



情報文化部会特集

徳川家ゆかりの地をめぐる旅



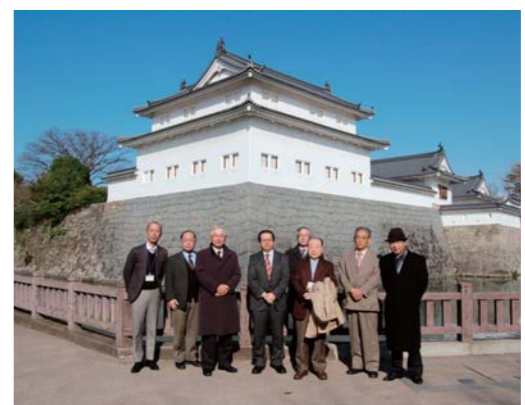
徳川家康公の人形 (制作:アトリエサンゴ)

静岡商工会議所の情報文化部会役員6名(部長・曾根正弘氏、副部長・北村敏廣氏、梶明夫氏、曾根伸治氏、柴山修作氏、西貝誠一氏)は平成24年2月10日、郷土史家・黒澤脩氏の案内で、静岡市に点在する徳川家ゆかりの地をめぐる旅をしました。

平成22年12月に久能山東照宮が国宝に指定され、久能山を訪れる観光客が増加しており、徳川家康公の没後四百年にあたる平成27年には、久能山東照宮で御鎮座四百年大祭が計画されています。

そこで、徳川家ゆかりの地をめぐる旅を定番化して、静岡市を訪れる人に参加していただき、家康公と静岡(駿府)との結びつきの強さを内外に発信したいと考えています。

今回の部会特集では、旅の見どころを写真で紹介します。



駿府城二ノ丸東御門・異櫓の前で記念撮影

9時35分
10時35分

① 駿府城 (すんぶじょう)

家康公が今川館跡に築いた城

天正14年(1586)、五方国の大名として浜松城から駿府に移った家康公は、駿府今川館の跡地に駿府城を築き、天正17年までに天守閣をはじめ二ノ丸までの駿府城を完成。翌

年、家康公は、秀吉の命により関東に移封され、中村一氏が城主に。將軍職を秀忠公に譲った家康公は、慶長12年(1607)に駿府に戻り、天正期の駿府城に三ノ丸を拡張し、天守などを修築。同時に、駿府の町割りや安倍川の治水事業に取り組み、現在の市街地の原型を造りあげました。

家康公没後の寛永12年(1635)、城下より出火し、城内の大半を焼失。寛永15年に御殿・櫓・城門等は再建されましたが、天守は再建されませんでした。

明治3年(1870)に各城門は払い下げられ、取り壊されました。現在の東御門・異櫓は、寛永15年に建てられた城門を静岡市内の旧家に残されていた指図に基づいて30億円で再建したものです。

東御門内には大御所時代の駿府城と城下町を紹介する展示があり、異櫓内には臨濟寺「竹千代手習」



右 駿府城天守閣模型
左 二ノ丸東御門の青銅しゃちほこ

いの間」のレプリカを展示。本丸跡には、家康公お手植えみかん(県指定天然記念物)、大御所時代の家康公像(制作:堤達男氏)があります。



駿府大御所時代の家康像 (駿府城本丸跡 制作:堤達男氏)



駿府城模型 (寛永12年の天守焼失後の姿を再現)

10時45分 (重中から)

② 臨濟寺 (りんじじ)

家康公が人質時代に学んだ寺

臨濟寺は、今川氏輝の菩提寺として今川義元が創建し、住持として太原雪斎を迎えました。雪斎は天文18年(1549)、三河安祥の戦いに大軍を率いて出陣し、織田家に入質として捕えられていた松平竹



「竹千代手習いの間」 臨濟寺の部屋を駿府城異櫓内に復元展示

千代(後の家康公)を取り戻しました。今川義元は永禄3年(1560)に桶狭間で戦死するまでの12年間(8歳~19歳)、竹千代を「人質」として駿府に抑留。雪斎に教育させ、元服のときには義元の「元」の字を与えて松平元信と改名させ、妹の娘と結婚させ、将来の参謀として育てました。

現在の本堂(国指定重要文化財)は、家康公が天正15年(1587)に再建したもので、竹千代手習いの間が再現されています。名勝庭園には家康公お手接ぎの西湖梅、唐椿があります。修行寺のため、通常は拝観できません。

なお、竹千代手習いの間は、駿府城二ノ丸異櫓内でレプリカを公開しています。